

生涯
学習課

陸上競技の技術向上に向けて

レベルアップスポーツ教室

6月11日、庄原市上野総合公園陸上競技場でスポーツ技術の向上を目指したレベルアップスポーツ教室陸上競技教室を開催しました。

本年度9回目となるこの教室に、指導者講習会受講者と市内の小学生の総勢31人が参加しました。参加者はそれぞれ競技種目（短距離走・長距離走・ハードル走・走り幅跳び）と指導者講習会に分かれ、13人の講師から基本動作や練習法などを学び、参加者は楽しみながら真剣に取り組んでいました。

ハードル走に参加した増田健人くん（庄原小5年）は「今日は楽しかった。次もまた来たい」と話していました。

本年度、レベルアップスポーツ教室は、陸上競技教室をはじめ、卓球教室、競泳教室、バレーボール教室、フットサル教室、スキー教室を行う予定です。



スタートダッシュ



記録更新めざし大跳躍

商工
観光課

新人職員の輪を広げよう！

新社会人交流会



参加者を激励する木山耕三市長



ゲームなどで盛り上がった会場

庄原市新社会人交流会実行委員会が主催する「新社会人交流会」が5月28日、庄原グラウンドホテルで開催されました。

庄原市で働く新社会人同士のつながりを深めることで、就業後の不安を解消してもらおうと企画され、約50人が集まりました。

第一部の研修会では、木山耕三市長からの激励の後、参加者は先輩の体験談に耳を傾けました。第

二部の交流会ではゲームなどで盛り上がり、参加者は業種を越えて交流を深めた様子でした。

実行委員長の前上修一さんは「職種や業種を越えた横のつながりを持つことで、市外から就職した人に新しい生活や仕事に早く慣れてもらうだけでなく、定住にもつながれば」と話していました。

この交流会をきっかけに、若手社会人の活躍が期待されます。

商工
観光課

“魅せる庭づくりの極意”を学ぶ

雑誌ガーデン＆ガーデンタイアップ事業『ガーデニング講演会』

庄原観光いちばん協議会は5月30日、雑誌ガーデン＆ガーデンとのタイアップ事業として「ガーデニング講演会」を開催し、市内外から約80人が受講しました。

この講演会は、全国誌として長く愛される雑誌ガーデン＆ガーデン編集者から、全国の事例や魅せる庭づくりのポイントを学び、花と緑の観光資源の担い手のノウハウ向上や花と緑のまちづくりへの啓発を目的に実施しました。

講師の井上園子さんは、これまでの取材や編集の過程で得た「魅せる庭づくり」のポイントとして①庭のコンセプトを明確に②シーンの切り替えでメリハリを③小物を活用してストーリー性を④奥行きのある庭は視線を止めるポイントを作るなどを挙げ、「庭の大小に関わらず生かせるポイントなので、ぜひ取り入れてほしい」と話しました。

受講者は「人を引きつける魅力的な庭づくりについ



講師の井上さんはガーデン＆ガーデンの編集やガーデンアドバイザーを務める

て学べた。試行錯誤の真つ最中なので、しっかり取り入れていきたい」と話していました。

今回、講演会に合わせて、庄原さとやまオーブンガーデンの取材を慣行。7月16日に発売の雑誌ガーデン＆ガーデンVOL.58では、取材内容をまとめた特集記事が掲載される予定です。

総領支所

医療・介護・福祉協働の地域づくり！

総領地域ケア会議講演会

5月21日、総領自治振興センターで、庄原市総領地域ケア会議主催による講演会が開催され約100人が参加しました。

講演会では、最初に市から介護保険制度改正についての説明をした後、「健康寿命をのばそう」セルフケアとかかりつけ医について「心不全の観点から」と題した講演がありました。

講演では、元総領診療所長で広島市立安佐市民病院総合診療科副部長永井道明さんが、外来血圧（病院で測定した血圧）の変動と、認知症や脳心血管疾患発症との関連性や予防方法について講演しました。

また、その講演会の中で、永井さんは総領診療所長として中山間地域の医療を担ったことを振り返りながら「団塊の世代が75歳以上となる2025年問題に向けて、医療だけでなく、介護・生活支援などを一体的に考える多面的なアプローチが必要。総領地域ではすでにその取り組みが実践されている」と語りました。

参加した60歳代の女性は「改めて食事と運動の大切さを学んだ。これからの生活習慣を見直したい」と話していました。



参加者と同じ目線での講演会



参加者にやさしく語りかける永井さん

商工
観光課

来館者大台突破

ゆめさくら来館者400万人達成記念式典

6月18日、食彩館しょうばらゆめさくらの来館者数が、平成14年4月の開館以降ついに400万人を超え、記念式典が行われました。

400万人目となったのは、前日から市内に宿泊し、買い物に訪れた尾道市の新田和子さんと檀啓子さん親子。木山耕三市長と一緒にくす玉を割り、来館者数大台突破を一緒に祝いました。木山市長は式典で「これまでゆめさくらに関わっていたいただいた関係者の皆さまや訪れてくださった多くのお客さまに感謝したい」とあいさつしました。

柏さんは「以前食べたアップルパイがおいしくて立ち寄った。ほかにも



大台突破の記念式典

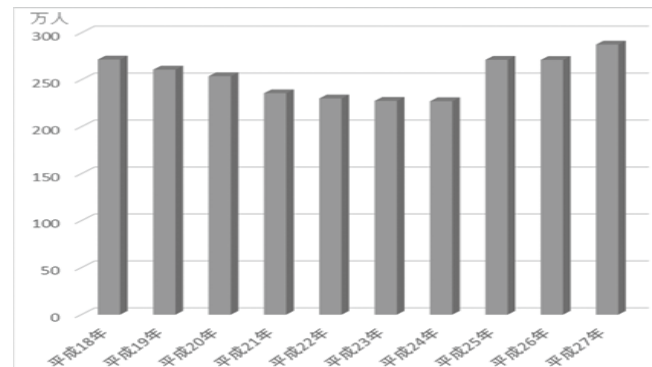
ここには新鮮な野菜やアイスクリームなどなんでもそろっている」と話していました。

商工
観光課

過去最多の観光客数を記録！！

庄原市観光客数

広島県が毎年実施している観光客数の動向調査の結果、庄原市の平成27年は、これまで最高だった平成18年の総観光客数271万5千人を上回る287万5124人を記録し、市が観光振興計画に掲げている「平成30年までに観光客数を282万人にする」という目標数値を超えました。中国やまなみ街道を利用される山陰・山陽方面からの観光客の誘客を図るために実施した旅行業者などへの営業活動や広告宣伝などのPR活動が観光客増加の大きな要因とみられます。引き続き市外への観光プロモーションを強化し、誘客を図っていきます。



観光客数の推移

商工
観光課

売れる！特産品開発講座を開催

新たな特産品づくりがスタート

庄原観光いちばん協議会が主催する「売れる！特産品開発講座」が、第1回を5月25日・26日、第2回を6月8日・9日、庄原・東城・高野の3会場で開催され、延べ1000人を超える参加者が熱心に受講しました。

この講座は、県下最大級の生産量を誇る食材の宝庫・庄原の強みを生かして、地域で生産された農畜産物を活用した「売れる特産品」の開発を進めることで、地域の活性化につなげていくことを目的に実施しています。

講座では、全国各地で特産品開発を手がける総務省地域力創造アドバイザーの碓孝洋さんを講師に招き、特産品の現状や商品づくりのポイントなどを学びました。碓さんは「過去に開発した特産品なども、開発した時と現在とでは顧客のニーズが変わってきている。売れる特産品であり続けるには、変化に合わせた物づくりをしていく必要がある」と受講生に呼びかけました。

今回の講座を受講した参加者は、6月から新たな特産品の開発や、特産品のブラッシュアップに取り組んでいます。



碓さんが売れている特産品の事例を紹介



講師の話に熱心に耳を傾ける参加者の皆さん